

# 風の流

◆ 一般投稿作品 ◆

岡崎桜雲 選

傾きし陽のこぼれくる冬紅葉  
 冬の陽を追ふて座をとる針仕事  
 耕運機白鷺二羽が舞い降りて  
 陽だまりのカマキリ飛ばす僕を見た  
 喘息の一夜を哭くやもがり笛  
 若き友又見送りぬ年の暮  
 星ひとつ流れて年を惜しみけり  
 夕映えにダム湖照らされ鴨浮かぶ  
 ペットにも服を新調年用意  
 小春日や孫の見舞いに祖父機嫌  
 庭石の楓も耐えて春を待つ  
 露けしや墨磨る夜の独り言  
 寒雀歩く私に逃げまどう  
 油断して夜々長さを無為に居し  
 過疎の里黄金彩る銀杏かな  
 町並木灯油売りの歌ひびく  
 元旦の光充電この一年  
 ドサドサと師走の雪に竹しなる

◆ 美良布俳句会 ◆  
 なにやかと災ありし年暮るる  
 咲き残る庭たずね来て冬の蝶  
 虎落笛風の怒れる平和呆け  
 持ち帰りならぬおみくじ結ぶ小春

上池 児未  
 中村 紫乃  
 畠山 千江  
 原 茂  
 森本 幸美  
 山崎 寿美  
 山崎 貴子  
 五百歳利美  
 秋山 英身  
 大場比奈子  
 岡本 初美  
 秋 星  
 吉川 恵  
 東 月  
 高田 稔  
 三木 牧子  
 三谷 誠郎  
 楮佐古きよ  
 岡本かほる  
 明石ゆきゑ  
 北村 幸子  
 甲藤 卓雄

朝湖面冬木の影や蕪生郷  
 残照や鴨一羽飛び立つみだれ  
 綿虫やしきりに祖母を恋ふ日かな  
 忘年会無事に参加と母白寿  
 目の前にオリオン光る冬の夜  
 山茶花の根もとをつなぎあつめ布き

◆ かがみ野俳句会 ◆

ははの年越してつらつら鱈大根  
 つくろいしズボン勤労感謝の日  
 冬満月好きと言う事言い忘れ  
 住み古や山茶花散り敷く今朝の白  
 小春日や指鉄砲の的は猫

◆ かほく俳句会 ◆

父と児の九九さらふ声冬至風呂  
 白障子色あせれば歴史みる  
 振り分けし時計の振り去年今年  
 小春日や土佐の山田に両陛下  
 稜線に潤む日輪師走入る  
 木犀の香は何処より夜の散歩  
 冬の夜屠りて命つなぎをり  
 小春日といふそれだけで不満なし  
 神が守り仏も守りて山眠る  
 ポケットのケイタイ温し日なたほこ  
 万年青の実赤々卒寿近づきぬ  
 さまざまに生きて酌み交ふ年忘  
 今日の無事無難を巡り冬遍路  
 花八手我が原点の家直す  
 小春日のマラソンコース沸き返る  
 十一貫切りし体重冬至の湯

◆ 土佐山田町俳句会 ◆  
 三番線のベンチにひとり十二月  
 木枯の引っぱって来る中華そば  
 壊れゆく地球を見ている寒鼻  
 ふるさとの水痩せており十二月  
 一年の埃の重さ知る師走  
 雑踏が好きで師走の交差点  
 開戦に記念日とあり十二月

◆ 今月のキラリ ◆

広報委員会

冬の陽を追ふて座をとる針仕事  
 今では針仕事も、冬の陽射しの温かみも遠い日のこととなったが、永い昭和を生きた人たちは、冬だから感じる陽射しのありがたさ、針仕事の日常もこの句の場面は眼裏にあるだろう。

俳句・短歌の投稿方法

▼ 投稿方法は自由。住所、氏名、電話番号を明記してください。  
 ▼ 俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。  
 ▼ 誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。  
 【投稿先】総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係  
 〒782-18501 (住所記載不要) FAX 53・5958

香美市立美術館

## アートの窓



香美市立美術館では、『大野良一展 拡がる彫刻の世界』を開催します。大野良一は、昭和24年に仁淀川町に生まれ、九州産業大学で彫刻を学んだ後、母校の県立高知工業高等学校で長く後輩の指導にあたってきました。教職の傍ら制作に励み、高知県展をはじめ、中央の新作協会展にも出品を重ね、昭和49年に県展無鑑査、平成28年には新作協会展員に推挙されました。

昨年オープンしたオーテピアからの依頼で、大野は寺田寅彦像を制作しました。その時、寺田寅彦にまつわる逸話から発想し、巨大な椿の花を制作。そのことがきっかけで、次々と動物や植物の像を作るようになりました。人体が中心の彫刻の世界では珍しいこれらの作品は注目を集め、高く評価されています。今回の展覧会では、大野の多種多様な彫刻表現の世界を、皆さんにご紹介いたします。



▲雨あがりⅡ

## 吉井勇記念館だより

吉井勇顕彰短歌大会 講演会

14時〜 講演会  
 【場所】猪野々集会所(吉井勇記念館隣)  
 【講師】井上佳香さん(高知新聞歌壇選者)  
 【送迎バス】※無料・要予約  
 香美市役所本庁舎前より、JRバス美良布駅経由。行き 12時発(JRバス美良布駅12時20分) 帰り 15時40分発  
 【日時】3月9日(土) 13時〜 表彰式

吉井勇作品紹介 ― 谷崎潤一郎 ―

たたかひはずでに終わりぬのころせば  
 友よしづかに老いゆかむもの

※昭和20年初秋、疎開先の勇が谷崎潤一郎におくった歌

谷崎潤一郎とは東京府立第一中学校の同級生でしたが、当時はあまり面識がなく、その後、文学仲間の集まりで顔を合わせるうちに交流を持つようになります。谷崎は晩年、「私は吉井君の、変に頑な専門の歌人

問い合わせ先 吉井勇記念館 ☎58・2220

## 大野良一展 拡がる彫刻の世界

2月9日(土)〜3月24日(日)

休館日/月曜日(祝日の場合は開館し、翌日休館)